



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Follow Your Rotary Dream

「ロータリーの夢を追い続けよう」

1998～99年度・国際ロータリーテーマ/ジェームス・レイシー会長

「明かるいクラブと豊かな人生」

1998～99年度・東京新南ロータリークラブテーマ/宮武 保義会長

本日の例会 10月23日 第581回例会

卓話 イニシエーションスピーチ

「ホテルと環境問題」

当クラブ会員

全日空エンタプライズ(株)専務取締役

東京全日空ホテル総支配人

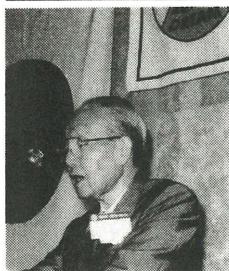
酒井 一史君

◎出席報告

●会員73名/出席54名・欠席19名(出席規定免除者4名)

●ビジター9名

先週報告 10月16日 第580回例会



卓話

「長瀬富郎のロータリー観」

第2590地区パストガバナー

川崎北ロータリークラブ会員

(医療)津田病院院長

津田 進氏

◎慶事披露

●ベネファクター表彰/宮武保義君

●誕生日祝い/加藤昌明君(10月16日)、河原勢自君、(10月20日)



10月16日/10件 30,000円

98～99年度累計 627,000円

多額のご寄付を有難うございます。

(順不同敬称略)

田辺賢三/津田先生、本日は遠路わざわざ有難うございました。宮本正祥/津田さん、本日の卓話、楽しみにしています。田中 武/誕生祝ありがとうございます。山下忠治/宮本さん、宮武さん、難解と言われるシェルドンの翻訳ご苦労様でした。岩瀬秀郎/本日は協議会でしゃべらせて頂きます。大日方真/宮武会長、小澁副会長はじめ沢山の方から旅行の写真をいただきました。松原秋夫/高須さん、柴田さん、ありがとうございます。例会欠席が続きましたので、誕生祝いありがとうございます。相澤成憲/本日専門新聞大会があり、役をもっておりますので早目に退席させていただきます。小澁雅亮/クラブ協議会を中座させていただきます。申し訳ありません。加藤昌明/Niconico担当です。本日は有難うございました。本日で69才となりました。今後ともよろしく願います。

◎第3回クラブ協議会

10月16日 13:40～15:00 全日空ホテル 八雲の間(出席者35名)

テーマ「見直そう、ロータリーの職業奉仕」

はじめに

世紀末の雰囲気濃厚だが、今、深い思索と知恵が求められている。政治、経済や、社会のシステムが至る所で崩れ去っていくように見える。人間を最も根底的なところで考えるのが哲学なら、職業奉仕の哲学と、知恵と、教えの出番ではないか。

1) 職業奉仕の歴史と要点(宮本委員長)

1911年 シェルドンの”HE PROFITS MOST WHO SERVES BEST”が採択される。

1921年 シェルドンが奉仕の哲学の講演をエジンバラで行う。又シカゴクラブの雑誌に掲載するための論文を書く。

(シェルドン著「奉仕の哲学(The Philosophy of Service)」、翻訳資料添付)

1923年 セントルイス大会で23-34号が採択。

1927年 「正しい商取引の方法」を「職業奉仕」と呼ぶ。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四項目となる。

以下、1987年に「職業奉仕における新方針」、1989年に「職業宣言」、1992年に「社会奉仕活動に対する方針」をそれぞれ採択し、現在に至る。

2) 職業奉仕から見た日本の現状(佐々木副委員長)

職業奉仕とは「四つのテスト」を自らの職業を通じて実践をする事に尽きると思う。この観点から日本の現状をみると嘆かわしい限りである。特に国をリードする立場にあるトップ官僚、政治家、民間の大企業、金融機関の経営者達に、職業奉仕以前のモラルハザードが顕著であるのは、最近の一連の不祥事で逮捕者迄出ている事で明白である。

モラルとは本来「人の踏み行うべき道」である筈なのに、人の道を踏み外した人達が各界のトップにいとすれば、日本が正しい道を歩める筈がない。未だ日本の指導者層が職業奉仕以前にとどまっているのが日本の現状である。

そんな日本にも住管機構の中坊社長や、IBBY世界大会で格調高い講演をされ、自らは何も主張されないのに、世界の多くの人々に深い感動を与え、日本の皇室の素晴らしさを認識させた美智子皇后の様な、職業(まさに天職)奉仕の神髄を示された方もおられるのである。ロータリアンも自己満足で完結する奉仕でなく、この様なI serveによって自然に輪が広がり、結果としてWe serveになる職業奉仕活動を心掛けてゆきたい。

3) 解釈と実践 (岩瀬委員)

◎ 1923年のセントルイス大会、23-34号。

「奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことを言うのではなく、またロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない」

◎ 1993年10月29日の当クラブのフォーラム。

「職業を熱心にやれば職業奉仕ではないかという巷間よく言われる職業奉仕観は誤りである。職業活動に品位や倫理が欠けていれば、やればやるほど反社会的になる場合もありうる。職業は金儲けだけの活動であってはならない。」

◎ 「職業奉仕」とは「自分の属している企業を通じて他人のことを思いやる」ということではないか。

- 自分の属する企業を立派に存続させること。
- 株主、役員、一般従業員が適度に潤うこと。
- 顧客(ユーザー、商社、金融機関を含め)を適度に儲けさせること。
- これはそれぞれの企業で働くひとのみならずその家族も含めて考えるべきこと。
- その企業で働く人は金銭的のみならず、働く環境も整備され働きやすい職場にすること。
- 企業の周辺の環境にも気を配り、近隣に迷惑をかけず、むしろ愛される企業にすべきこと。
- 得られたPROFITSを以て個人としてであれ、企業としてであれ寄付行為やボランティア活動により社会に貢献すること。そして、全体的にみてバランスのとれた「品位ある企業」とすることが理想なのではないか。

一口に言うならば

◎ 「職業奉仕」は「広い意味での(税法上ではない)経費」の中で賄われるべきもの

◎ 「社会奉仕」は「利潤」の中で賄われるべきものという事は出来ないでしょうか。

4) 私はこう考える (関委員)

奉仕という言葉のニュアンスが、私にとって分かりにくいところがありますので、「サービス」でくくっています。

何がロータリー理念に添った私なりのサービスなのかといえば、「広告業界は、競争を通してサービス(商品、暮らしの道具)を提供する」ことだと考えています。また私の会社にとって「競争に打ち勝って企業として存続する」ことが、コンペの多い現場なので重要です。企業が同業他社に勝つためのイメージ戦略の相手(消費者、従業員、組合、株主、銀行等)が、すなわちサービスの対象相手でもあることにも気がついていきます。

これを実践するためには、1900年代初めの頃のポール・ハリスが感じたシカゴとは、国や時代等ニュアンスが違うため、「職業奉仕四つの反省」をもう少し現実に合わせた咀嚼が必要だと考えています。法的な犯罪や人間倫理に合わない行為が組織構造化されている現実に対し、ロータリー理念の到達や実践の難しさも感じています。

5) 新会員から見た職業奉仕 (福島委員)

入会当初、ロータリークラブは、4大奉仕に基づく奉仕の理想を社会生活の実践の基盤とすることにより会員同士の親睦を計ることが目的と聞かされ、耳慣れない抽象的な標語にどのように参加すれば良いものか戸惑いは隠せませんでした。その上、他の奉仕団体と異なる点が「職業奉仕」であり、ロータリーの金看板だと聞かされ、正直なところ哲学的で難解だと感じたものです。ロータリーでは、1927年に「正しい商取引の方法」を「職業奉仕」と呼ぶこととしたと聞いています。

これより数年後米国を中心に経済恐慌が吹き荒れ職業奉仕の意味合いが改めて大切だとされた時期でした。まさに、いまの日本の現状そのもののよう感じられます。

今年から職業奉仕委員会のメンバーに加えていただき、委員会での雑談やお話し合いのなかで、ようやくその謎が解けたように思いました。それは、そんなに難しく考えず普通誰でもが理解し、実践できる理念ではないかということです。「いいこと、悪いこと。していいこと、駄目なこと」の判断は、言われなくとも当然社会人であれば知っていることです。

以前、佐藤千寿バストガバナーが「ロータリアン1人ひとりが職業を通じ周りの人を喜ばせることであり幸福を与えること」と話されていたそうです。

私なりに、職業はもともと、「人に喜ばれ初めて報酬を頂くことこそ職業の神髄」と考えていましたが期せずしてロータリーでいう職業奉仕だとも思い心強く感じました。

やはり適切な利潤の元にお互いに満足する仕事を実践することこそ職業倫理に合うことかも知れません。その点で、ロータリーの「4つのテスト」は、正に的を得ています。ほとんどの企業で、倫理綱領、社是を掲げてはいるが、何時しか神棚の上に置かれたままで読み返すことなく、ただ作っただけで満足し、実践したつもりになっていないか。今まさに、実践行為が問われています。

ロータリアンは、クラブ活動を通じ改めて職業奉仕に理解を深めると同時に、自社企業や職員、社員1人ひとりに啓蒙活動を実践し少しでも理解を深めては如何なものでしょうか。

6) 見直して実践しよう (河原委員)

職業奉仕はロータリーの「金看板」だと言う。それでいて多くのロータリアンが職業奉仕は分からないと言う。もうそんな時期ではない。

職業奉仕は職業の基盤に倫理をおき、社会に奉仕する存在として企業を遂行すべきであると言っているのであり、正にロータリークラブの存在意義を宣言している。

当クラブは職業奉仕の意味はもう理解している。思想運動は啓蒙が重要であるから、常に思想の原点をみつめ直すことは絶対必要であるが、運動である以上、実践も必須である。

各個人が自己の職業遂行の折にふれて、倫理を基礎における一職業活動は尊敬される職業ではあり得る一ことを説くことも必要である。「7代後の子孫にとってよいことはイエス、7代後の子孫にとって悪いことは今よくてもノー」と言うインディアン・イロクオイ族の諺は、我々の職業倫理の指針として重要な示唆を与えてくれると思われる。

7) 講評 (宮本委員長)

職業奉仕委員会から3つ提案したい。

- ①職業奉仕を神棚より取り出していただきたい。そしてごく当たり前の事の提唱との解釈で身近に感じていただきたい。
- ②議論や心構えだけでは奉仕にならない。行動に移して実践して、初めて奉仕になる事を認識していただきたい。
- ③そして実践の方法を考えていただきたい。職業を活かしてのボランティア活動、学生の指導や教育等、種々の活動が考えられるが、一番身近にある職場等においての実践を計画してはいかがでしょう。

見直そう、ロータリーの職業奉仕、そして原点に向かって進もうではありませんか。

次週予告 10月30日 第582回例会

卓話はありません

例会後、富士ゼロックス(株)海老名事業所見学と
横浜中華街「順海閣」にて親睦会

東京新南ロータリークラブ

会長：宮武保義 副会長：小澁雅亮 幹事：大日方真
〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階
TEL：03-3505-5976 FAX：03-3505-6004

例会日：毎週金曜日 12時30分

例会場：東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL:03-3505-1111

<会報委員>

田中 武、小杉 眞史、小原 渉、
開発 英基、柴田 尚毅、大山 啓人、
T. CONSIGNY、水原信太郎、谷 義一、
金光 圭一、大村 富俊、村山 公士
(編集担当順)